

令和8年6月記者会見

質疑応答の概要

①住みよさランキング 2026」北海道・東北編第1位

Q.

北海道・東北編第1位となった要因をどのように考えていますか。

A.企画政策課長

4つの指標のうち、「安心度」と「快適度」の評価が高かったことが、今回の結果につながったと考えています。

Q.

「安心度」「快適度」が高かった理由として、どのようなことが考えられますか。

A.企画政策課長

安心度の指標には子ども医療費助成などが評価項目に含まれており、快適度には転出入人口比率などの項目がありますので、そうした項目で評価が高かったことが要因と考えています。

Q.

昨年の順位を教えてください。

A.企画政策課長

昨年は北海道・東北編で2位です。

Q.

今回初めて北海道・東北編第1位となった率直な感想と、今後のまちづくりへの考えや取組などをお聞かせください。

A.市長

これまでも段階的に順位が上がってきており、今回初めて1位となりました。これは「住みたくなるまち日本一」を目指し、一つ一つ施策を積み重ねてきた結果だと思えます。特に、学校給食費無償化や18歳までの医療費無償化といった「子どもにやさしいまちづくり」をはじめ、さまざまな取組が評価につながったものと考えています。今後も、市民の声を聞きながら施策を進め、さまざまな自治体評価ランキングで高い評価をいただけるよう取り組んでいきます。

Q.

2024 年度の順位を教えてください。また、北海道・東北編ランキングは以前から実施されていたのでしょうか。

A.企画政策課長

2024 年度は 4 位でした。北海道・東北編などエリア別の調査は 2024 年度から開始されており、それ以前は実施されていませんでした。

③「市指定ごみ袋」の取扱いに係る一時的な特例措置

Q.

ごみ袋の買い占めにより不安を感じている市民に対して、市長から呼びかけはありますか。

A.市長

4 月の段階では、2 社の納入事業者どちらも十分な在庫を確保しており問題ないと聞いていました。しかし、他自治体で品薄となった影響もあり、まとめ買いが進み、5 月には通常の倍のペースで購入される状況となりました。このままでは必要な方が購入できなくなる恐れがあるため、今回 7 月から特例の措置として行うものです。引き続き、市民の皆さんには冷静に、必要な分だけ購入していただくようお願いしていきます。

④富谷市立全小中学校大型冷風機の設置

Q.

大型冷風機の使用基準はありますか。

A.教育総務課長

使用について特に温度などの基準は設けておらず、学校の判断で暑い時に使用してもらうこととしています。

Q.

体育館への空調設備導入計画の今後の見通しを教えてください。

A.教育総務課長

現在、13 校分の空調設備の実施設計を行っています。設計完了後、令和 9 年度から中学校 2 校の体育館を皮切りに、整備を進めていく予定です。時期は、遅くとも国の補助制度（学校施設環境整備交付金）の期限である令和 15 年度までには整備を完了したいと考えています。

Q.

大型冷風機 26 台の本年度の賃借料はいくらですか。

A.教育総務課長

13校全体で約950万円です。各校2台設置し、1校当たりでは約72万円です。

⑤～中学生による避難所運営訓練～成田中学校「防災学習日（地域との防災活動）」

Q.

東京都北区の小学校火災を受けて、緊急点検や防災訓練の追加実施を検討していますか。

A.教育長

緊急の避難訓練について特段の指示はしていませんが、各学校において必要に応じて実施するものと考えています。また、今回の事例を受け、普段見回る教室だけでなく、準備室なども含めた点検を行うよう各学校に指示しています。

⑦「若生市長が伺います！もっと住みたくなるまちづくりトーク」の開催について

Q.

第2回以降はどのような企業・団体への訪問を検討していますか。

A.市民協働課長

具体的にはこれから検討しますが、教育団体や福祉団体などへの訪問を検討しています。

Q.

テーマは女性活躍に限らず、子育てなど幅広く設定していくのですか。

A.市民協働課長

テーマは幅広く設定していく予定です。さまざまな団体や企業に依頼しながら、意見を伺っていきたいと考えています。

その他の案件

Q.

市職員の逮捕を受けて設置した「不正事案に係る検証・再発防止委員会」について、市長の受け止めと今後の期待をお聞かせください。

A.市長

今回の職員逮捕は、富谷の市町村制137年の歴史の中でも前代未聞の事案であり、大変重く受け止めています。逮捕直後から職員への訓示や各種取組を進めてきました。6月19日に「富谷市不正事案に係る検証・再発防止委員会」の第1回会議を開催し、事案発生の経緯を徹底的に検証し、その上で二度と起こさないための対策を講じてもらうよう委員に強く要請しました。委員会には歴代管理職や顧問弁護士が参加しており、委員長の副市長を先頭にしっかり検証を進めてもらい、再発防止に取り組むよう強くお願いしたところです。

Q.

報道では容疑を認めているとされていますが、その受け止めは。

A.市長

本人と直接接する機会はなく、報道を通じて承知しています。4月10日以降、宮城県警からの要請に基づき捜査協力を行ってきました。「概ね認めている」という報道についてはコメントできませんが、逮捕そのものを重く受け止めており、市民や関係者の皆様に大変申し訳なく思っています。再発防止の検証やコンプライアンス研修を通じて、二度と同様の事案が起こらないよう徹底していきます。

Q.

土地利活用の提案について、市長自身も提案を受けたことはありましたか。また、飲食禁止などの緊急措置に関するルールはこれまでもあったのでしょうか。また、今後明文化する予定はありますか。

A.市長

令和6年12月に提案を受けた事実はありますが市として取り上げることはなく、提案を聞いたのみです。今回、緊急措置として割り勘であっても飲食を禁止としましたが、従来から年2回、副市長名で全職員に対し、利害関係者との会食や贈答品の授受など、市民の疑念を招く行為を厳に慎むよう通知しています。今回だけの特例ではなく、日頃から注意喚起を行っているところです。

Q.

他にも同様の事案がないか調査する考えはありますか。

A.副市長

再発防止策を検討する中で議論していくことになりますが、コンプライアンスに関する調査は庁内で実施する必要があると考えています。職員全体のコンプライアンス意識や遵守状況を把握した上でなければ、有効な再発防止策は検討できないと考えています。

Q.

今回の事例をきっかけとして、特に問題なく取引されている事業者側に対する働きかけを検討していますか。

A.副市長

今回の贈賄側業者とは道路や河川、農業施設の維持補修などで契約関係がありますが、県警からの聞き取りなどを通じて、今回の贈収賄事案と市の契約とは無関係であり、逮捕された職員も契約業務に関与できる立場ではありませんでした。今後、再発防止策の中で職員への徹底だけでなく、事業者側にも市職員に対する接待等が禁止されていることを周知してい

く必要があると考えています。

Q.

コンプライアンス研修はいつ、どのように実施する予定ですか。

A.市長

顧問弁護士である杜共同法律事務所の代表弁護士である佐藤裕一先生を講師に迎え、7月9日、13日、24日の3日間で全5回に分けて、全職員を対象に実施します。

Q.

接待の場に逮捕された職員以外の方が同席していたかは、調査で明らかになっていますか。

A.市長

そのような報告は受けていません。

Q.

業者からの提案を市として取り上げなかったのは、どのような理由ですか。

A.市長

提案内容が、富谷市のしんまちの活性化として有効な内容ではなかったとっております。提案をいただきましたが、それを市として取り入れようということには、全く至りませんでした。

Q.

提案内容とは、どのようなものだったのでしょうか。

A.市長

1年半前のことであり、内容についても同席した職員も含め具体的な印象は残っていないところでございます。少なくとも市として取り上げる、取り上げたいと思う内容ではなかったと思います。

Q.

市長の認識としても、その提案の場は1回限りですか。

A.市長

はい、そうです。

Q.

「首長マガジン」を読んだことはありますか。また、掲載された内容について、どのような印象を受けましたか。

A.市長

私自身もインタビューを受けたことがあり、内容もよく理解した上でまとめていただいたと感じています。仙台を拠点に頑張っている媒体であり、今後も応援したいと思います。

Q.

他自治体の首長の記事を読んでどう感じていますか。

A.市長

毎号拝読しており、大変参考になっています。全国の首長の思いやまちづくりの事例を知ることができ、とても有意義な雑誌だと思っています。

Q.

宮城県は大型屋内遊戯施設の整備が遅れていると言われている中で、ようやく整備が進んでいる段階かと思います。自治体として定住政策としての比重も高くなっていると思われませんが、「ユートミヤ」のような施設の意義や重要性をどう考えますか。

A.市長

当初は市民図書館整備の要望が強く、その後複合施設化を進める中で山形県などの施設を参考に「富谷にも屋内遊び場を」という多くの要望が寄せられていたため整備しました。これまでも子育て世帯の多い自治体として、屋内遊戯施設は必要な施設だと考えてきました。近年の酷暑や気候変動を考えると、整備して良かったと感じており、今後も全国的に需要は高まると思います。少子化対策の一つとしても重要な施設になると考えています。現在「とみのわひろば」は、土日は事前予約でほぼ満員の状況です。

Q.

大型屋内遊戯施設は、子育て施策のシンボリックな役割もあるのではないのでしょうか。

A.市長

間違いなくあると思います。富谷市は「子どもにやさしいまちづくり」を掲げ、給食費無償化や18歳までの医療費助成、学校へのエアコン整備などを進めてきました。その中でも「ユートミヤ」は、子どもにやさしいまちづくりのシンボリックな施設になると考えています。